

まちづくりコーディネーター通信

第8号

12月4日(月)まちづくりセンター職員「赤名公民館(飯南町)視察研修」の様子



目次

- P1 浜田地域のまちづくりに向けた動きについて
- P2～3 対談(島根県立大学 村山誠教授)
- P3 くざまんなかサロンの取組
- P4 飯南町視察研修、まちづくりCNのつぶやき

地域活動 浜田地域のまちづくりに向けた動きについて

地区まちづくり推進委員会が未設立の町内等で、まちづくりに向けた話し合いや活動が進んでいます！

まちづくりコーディネーターも会議や行事に全て参加し、住民アンケート調査や規約案の策定等のお手伝いをさせていただいています。



黒川町防災出前講座の様子



瀬戸ヶ島町の会長会議の様子



大辻町の会長会議の様子



元浜町の会長会議の様子



月1回を目安に、話し合いの場を設け、進めています！港町、大辻町、原井町、笠柄町でも同様に実施しています。

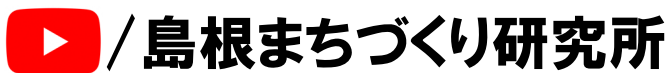
まちづくりセンターだよりの映像化を手掛けた村山教授と対談しました！



村山 誠 教授（島根県立大学浜田キャンパス）

神奈川県出身。明治大学大学院商学研究科博士後期課程修了。博士（商学）。本学総合政策学部教授を経て就任。研究分野は企業や従業員の活性化問題及び情報のあいまいさを考慮した意思決定問題。

引用：島根県立大学ホームページより



<https://www.youtube.com/@user-rb9nv9mt5v>



村山ゼミで運営する
YouTubeページ「島根まちづくり研究所」はこちら

Q.まちづくりセンターに関わることになったきっかけは何ですか？

A.私は、平成30年に島根県立大学に入り、地域活動の研究に取り組む中で、島根県との共同研究として大田市の事例や江津市の事例を学びました。
そこで島根県西部県民センターとの繋がりができ、その紹介を受けて令和2年度末に今市公民館（当時）を訪問したことが最初のきっかけです。
その時は、当時の館長であり、現在のまちづくりコーディネーターである大屋さんにいろいろとお世話になりました。

Q.なぜ、まちづくりセンターだよりの映像化をはじめられたのですか？

A.私のゼミでは、教員から提案することもちろんありますが、基本的には学生が「やりたい！」と思ったことを形にできるよう心掛けています。
この映像化の取組は、令和3年度からスタートした地区まちづくり推進委員会の紹介動画を作成するプロジェクトの中で、委員会が活動する拠点としてまちづくりセンターが在ることを知り、その拠点をよりPRし、人が集うきっかけを作りたいという思いからはじまりました。

Q.取組を進める中での気づきや、今後の展望についてお聞かせください。

A.私は、地区まちづくり推進委員会とまちづくりセンターの違いがよくわかりませんでした。それらの違いがはっきりわかったのはつい最近のことです。これは、住民の皆さんもひょっとしたらそのような認識を持っているかもしれません。
この取組を通じて、地区まちづくり推進委員会とまちづくりセンターが、その地域の協働のまちづくりを進めるための、「車の両輪」であることに気づいたのです。どちらかだけが早く回っていてもバランスが崩れるので、お互いが同じスピード感をもって回ることが大切です。そのためには、「ゆるい」つながりを作り、いろいろな活動に楽しく参画していくことが大切だと思います。
今後は、一部のまちづくりセンターで実施されている「通学合宿」に、学生を巻き込むことで新たな動きを生み出せたら、と考えています。また、地域で学生と一緒に何かしてみたい！ということがあれば、お気軽にご相談ください。

Q.ありがとうございました。最後に一言お願いします。

A.まちづくりを進めるためには、その母体である地区まちづくり推進委員会の組織の土台がしっかりしていることが大切です。組織が円滑に動くためには、「共通の目的」、「貢献意欲」、「コミュニケーション」が大きな3大要素だと考えます。どれかひとつでも欠けていては、なかなか物事がうまく進みません。まちづくりセンターやコーディネーターの皆さん、担当課の方々には、地域の中でこの3つを高めるための「場づくり」をぜひやっていただきたいと思います。



先生との出逢いは3年前に遡ります。「一緒になり、地域に元気になって頂きましょう」と非常に前向きな対話が多かったのが印象でした。今回の対談で、学生の「やりたい」からの学びを基本に、地域活動に学生が入る事を大切に考えられている想いが聞けました。組織運営では、「知らない」ことが悪い訳では無く、動き出す「大人の学び」の場を作る事こそが必要だと、今回も前向きな話を聞けました。

まちづくりコーディネーター 大屋

福祉 くざまんなかサロンの取組

今年度、7月に第1回、11月に第2回の「くざまんなかサロン」が、久佐まちづくりセンターで開催されました。

高齢の方にとって、サロン活動は心身ともにリフレッシュできるととても良い機会です。日頃会えない人に会い、近況を話し、軽運動をして体をほぐし、ゲームをしながら笑いあって皆さん本当に楽しんでいます。ミニコンサートでは、フォークソングに手拍子をし、演歌と一緒に口ずさんでいます。お惣菜、手作りパン、大判焼き、新鮮野菜、手作り小物など買い物もとても楽しみにしています。

健康体操、健康チェックコーナーに専門の人がいることでアドバイスを受けたり、あいのりタクシーの制度について気軽に聞けたりとちょっとした情報を得ることもできます。

このようなサロン活動が各地域で行われ、高齢の方が地域で安心して過ごしていけたら、と願っています。



社会教育 “自分達の地域は自分達で楽しく” 飯南町とつながる社会教育！

12月4日（月）に、『浜田市・飯南町社会教育交流会』が開催され、浜田市と飯南町のまちづくりセンター主事、公民館主事、派遣社会教育主事18名が参加しました。

赤名公民館の景山良一主事から、『自分の地域は自分たちで楽しくするために、社会教育士として取り組んでいること』というタイトルで、「双方向からの対話」や、「一人一人にある得意なことや意見を認めあい、尊重しあい、しっかりと気持ちを聴いていく」など、日ごろから大切にしていることを講義されました。

お互いに喜びあえる気持ちを積み重ねていく中で、社会教育士として自身の職務への意欲を高め、魅力的なまちづくりに向け気持ちを新たにできる学び合いでした。



コーディネーターのつぶやき 名 刺

名刺は、初対面の人同士を繋ぐ標準的なツールで起源は中国との事だ。紙の無い時代は木簡や竹簡がその役割を果たしていたという。真偽の程は定かでは無いが名刺の“刺”は木簡や竹簡を戸口に刺していた名残だともいわれる。

いわみのかみ

30年程昔の事、浜田総務事務所（当時）で、姓と名の間に「石見守」と書かれた名刺を頂戴し、一気に身近に感じられた事が忘れられない。名刺交換など憚られた当時、この名刺は大きな衝撃であり、今も大切にしまっている。

さて、そんな第2波ともいえる衝撃を過日受けた。それは、ある研修会場で名刺交換をした時だ。名刺を差し出され、満面の笑みで「申し訳ないが一文字「ふ」を書き添えて欲しい」と丁寧な所望された。書き足す箇所など見当たらず、己の理解の悪さにアタフタしていると、再度笑顔で「ここに。」と示された指の先は「学」と「名」の間。読めば、〇〇大学「ふ」名誉教授という事になる。まるで30年前の日を彷彿させるお茶目な名刺の頂戴シーンに心を揺さぶられた。

交換するだけで様々なドラマが生まれる「名刺」。とても素敵な文化だ。

まちづくりコーディネーター 大屋マサ子

通信へのアンケート



今年も大変お世話になりました！
左の二次元バーコードを読み取り、
本通信へのご意見をぜひお聞かせください！



浜田市地域政策部

まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9204

0855-25-9007

（CN執務室）

【FAX】 0855-23-1866

【メール】 manabi@city.hamada.lg.jp